

## 問題

SXF 変換後のファイルを V-nas で開くと、bfo で設定していたレイヤ依存色が変わってしまう

## 対象製品

V-nasClair・V-nas シリーズ 全般

V-nas 専用 CAD シリーズ 全般

## 回答

レイヤ依存色は V-nas 独自の機能のため、SXF ファイルでは保存されない情報となります。初期設定では SXF ファイルを開いた際のレイヤ依存色については図面上で最も多く使用されているものが登録されます。

SXF ファイルを開いた際のレイヤ依存色の扱いについては『設定－ファイル変換－SXF 変換』コマンドで変更することが可能です。

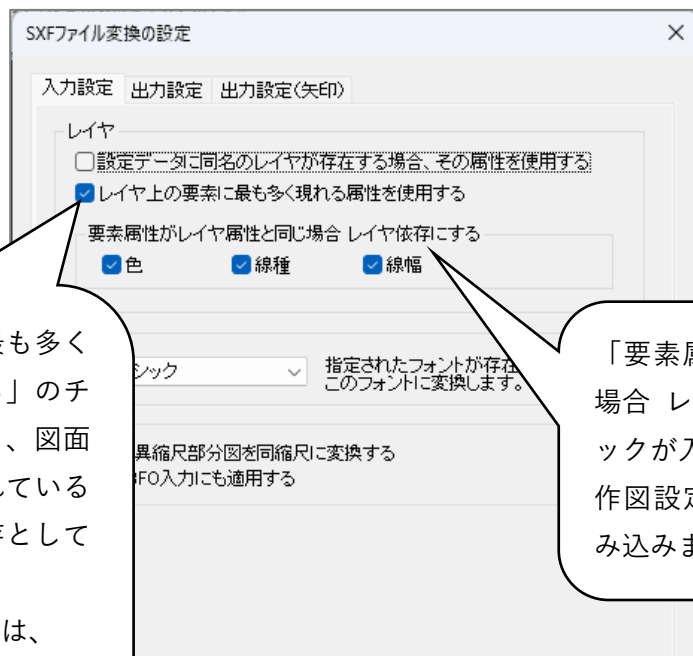
### ・SXF 変換設定について

対象コマンド：

[標準]：[設定] タブ－ [ファイル変換] カテゴリ－ [SXF 変換設定] コマンド

[クラシック]：『設定－ファイル変換－SXF 変換』コマンド

[アドバンス]：[設定] タブ－ [ファイル変換] カテゴリ－ [SXF 変換設定] コマンド

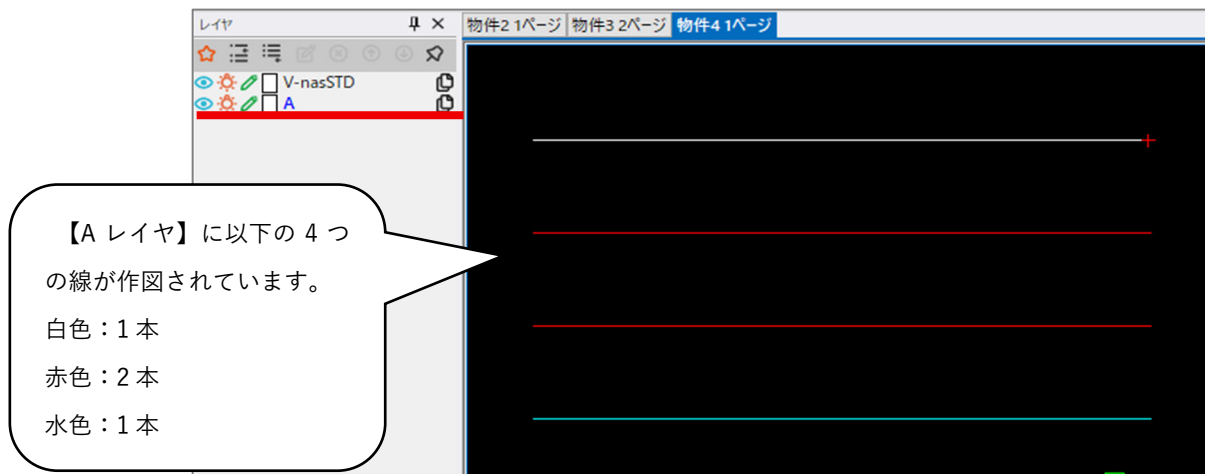


「レイヤ上の要素に最も多く現れる属性を使用する」のチェックが入っていると、図面内で最も多く使用されている作図設定がレイヤ依存として登録されます。

チェックがオフの場合は、レイヤ依存色が“白色”になります。

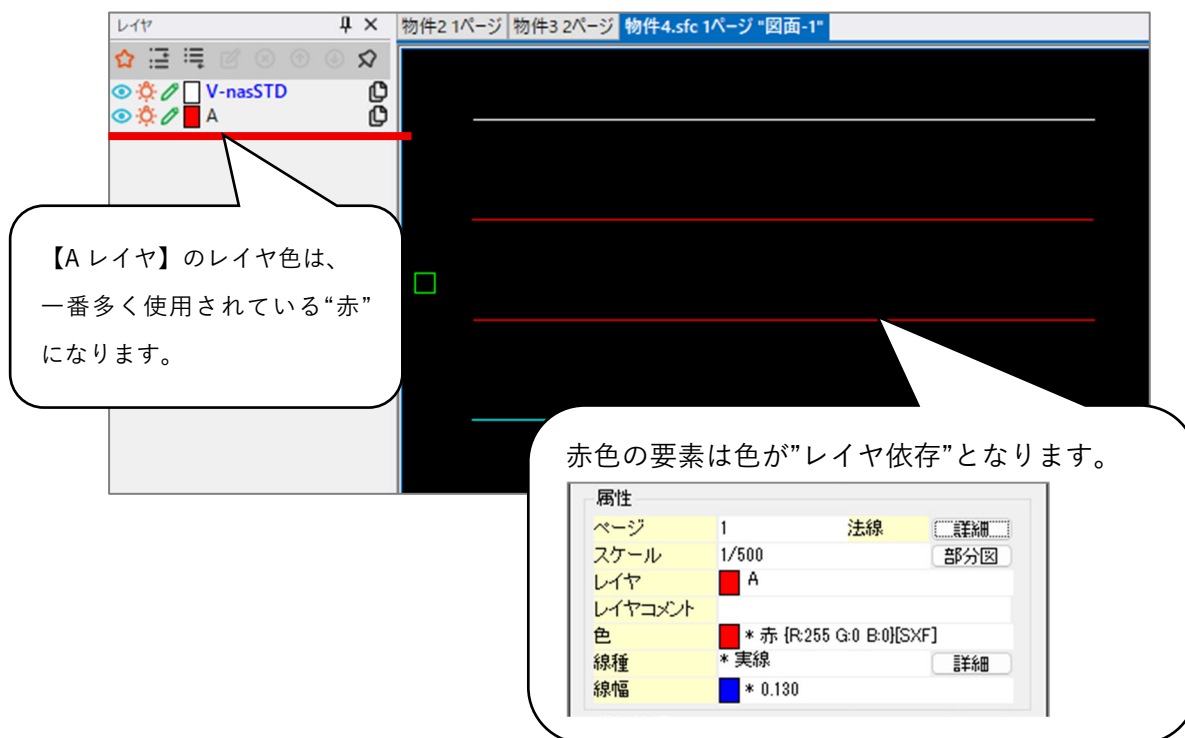
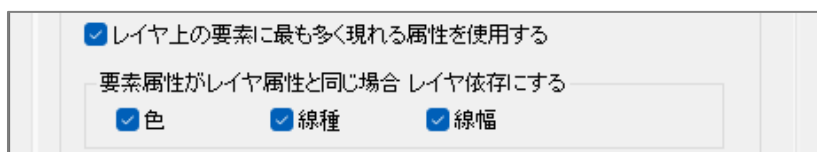
「要素属性がレイヤ属性と同じ場合 レイヤ依存とする」にチェックが入っていると、該当要素の作図設定はレイヤ依存として読み込みます。

下記のとおり作図されているデータを SXF 形式で保存後に、V-nas で開いた場合は設定によって下記の例の状態となります。



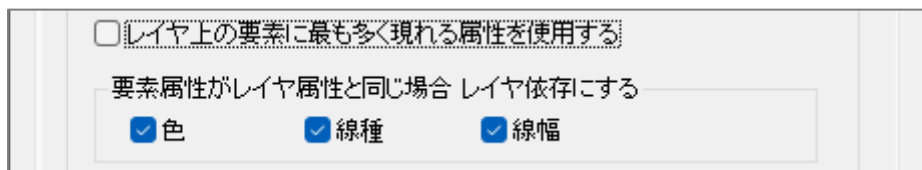
例1： SXF ファイル変換設定<出力設定タブ>を以下に設定して読み込む場合

- 要素に最も多く現れる属性を使用する：オン
- 要素属性がレイヤ属性と同じ場合 レイヤ依存とする：オン



例2： SXF ファイル変換設定<出力設定タブ>を以下に設定して読み込む場合

- レイヤ上の要素に最も多く現れる属性を使用する：オフ
- 要素属性がレイヤ属性と同じ場合 レイヤ依存とする：オン



赤色の要素は色がそのまま保持されます。

